

「北極圏到着」

フィンランドまで、日本からの直行便が毎日2便ずつ飛んでいるのですが、現在スウェーデンへの直行便はありません。どうしてもヘルシンキかコペンハーゲンでストックホルム行に乗り換えになります。さらに、ラップランド(北極圏)に行くためには、ストックホルムで、もう一度乗り換えです。日本からは、遠い遠い土地なのです。



写真は、ストックホルム・アーランダ国際空港の、国内線ターミナル4です。国際線ターミナル2から、歩いて10分もかかります。非常に大きい空港です。SAS(スカンジナビア航空)のハブ空港になっています。今回は、フィンランド航空でここまで来て、「Next Jet」というローカル線に乗り換えました。フォッカー100という小型ジェット機で、座席は自由席(!)要するに早い者勝ち!というすごいシステム。



ストックホルム近郊、ウプサラ付近の夜景です。日本とちがって、ナトリウム灯が多く、街全体がオレンジ色に見えます。



機は、途中「アルビズヤウル空港」で20人ほどの乗客をおろし、もう一度離陸して、やっとイエリバレー空港に到着しました。ここで、いきなりオーロラが見えることもあるのですが、今回は雪が降っていて、残念ながら見えませんでした。



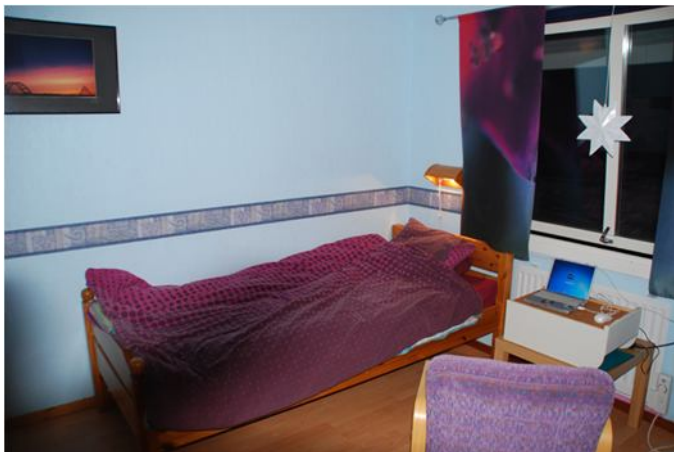
乗客は、ターミナルまで、雪の上を歩いて行きます。



北極圏にある小さな空港です。「ラップランド空港」とも呼ばれています。ここでレンタカーを借りました。

しかし、係のお姉さんは、まだ来ていませんでした。スウェーデンでは、珍しいことではありません。空港にたまたま来ていたスウェーデン人の友人に電話してもらい、15分後に無事、車を借りることができました。

その後、北極圏の凍った夜道を約1時間運転し、目的地のPorjus（ポルユス）に到着しました。幸い、トナカイの大群と遭遇することはありませんでした。



東京の自宅を出て、23時間かかりました。しかし、バンドラヘム（コテージ）には、寝心地のいいベッドと、素敵な部屋が用意されていて、あっという間に「BATAN-Q」となっていました。



冷蔵庫にはパトリシアさん（このコテージのオーナー、兼ポルユス駅の駅長）が、たくさんの食材を用意しておいてくれました。翌朝には、素晴らしいスウェーデン風の「フルッコスト（朝食）」を楽しむことができました。基本はパンですが、日本のような白い食パンや、バターロールはなく、ゴツゴツしたライ麦パンのようなものです。それにショット（ハム）、オスト（チーズ）、野菜などをのせて食べるのです。他にもヨーグルト、シリアルなどがあり、朝からお腹がいっぱいになってしまいました。



これが、滞在先のポルユス駅舎です。夏は列車が来るのですが、今は線路も雪の下です。時々線路の路盤を、スノーモービルが疾走しています。この駅舎のとなりに、バンドラヘム（コテージ）があり、それを友人のパトリシアさん（駅長）が経営しているのです。しかし、彼女は4月に、ご主人と南の街へ引っ越すことになっていて、今回が最後の滞在になります。



パトリシアさんと、ご主人のラーシュさん。日本からの土産を差し上げたところですが、いつ行っても歓迎してくれる、素晴らしい友人です。

今夜は、年越しのパーティがあります。いろいろな国の人が集まって、楽しい食事会になります。